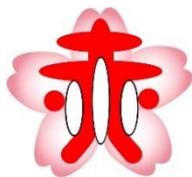


◆学校教育目標：「いのち」を尊び、共に学び、共に輝き、生命力あふれて生きる「あかいつ子」の育成◆

令和3年度 赤井小学校

令和3年10月1日 NO,12

赤井小ゆるキャラ



校長室だより 笑顔

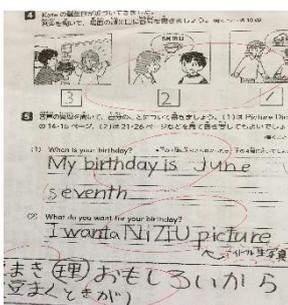


◆さくら児童会スローガン：協力し 笑顔あふれる あかいつ子◆

さくらだいこくん



My birthday . . .



昨年度、新学習指導要領が改訂されて5・6年生は外国語（週2時間）、3・4年生は外国語活動（週1時間）が始まりました。本校は外国語専科教師の木村教諭（赤井南小在籍）とART（外国語指導助手）のジョナサン先生が外国語を教えています。大きく変わったことは、話したり聞いたりするだけでなく、書くこと（大文字・小文字）が入りました。左のプリントには「私は6月〇日生まれです。（My birthday is June 〇〇.）」と書いています。子供たちは外国の文化に触れながら、たくさんの英語を覚えています。

少人数ルームが英語ルームに

ライティングに挑戦！



学力向上は教員の指導力向上から あかいつ子を伸ばす授業改善



「考えを聴いて、自分の答えに生かす（聴き合う関係）」

『「どうもおかしい。」の言葉から、来た人が西洋料理になって食べられることに気付いたと思います。』これは5年生の国語「注文の多い料理店」の授業の発表の場面です。本校の学力の課題は「書く力」です。書くためには、まず読み取り、そして、読み取ったことを相手に伝えたり、まとめたりするために、じっくりと精査し書き表すことが大切です。この授業では物語のキーワードを見つけて、その言葉を根拠に考えを広げました。この子供は「どうもおかしい。」をキーワードにしました。5年生の子供たちはそれぞれにキーワードを探してラインを引いて、考えを書きました。その考えをグループで伝え合い、さらに深めていき、紳士と山猫の本音を読み解きました。子供たちが学び合うこの授業は職員全員参加の研究授業です。山形大学大学院准教授森田智幸先生を招いて開催しました。

授業後は、教員同士で成果と課題を協議し授業改善のポイントを確認しました。その後、森田先生から「主体的、協働的で深い学び」を実践するために、子供同士が聴き合う関係を作り、最後は自分で答えをまとめることと、学習課題のレベルを上げて「挑戦したい」と思う課題にすることなどの講話をいただきました。

11月には森田先生をまたお招きし、全クラスで授業をして指導をいただきます。



本校職員と大学院生で検討会



民生児童委員の皆様を招いて、健全育成委員会！



赤井駐在所長も参加して児童の安全について協議しました。

9月15日（水）に、昨年はコロナ禍で開催できなかった健全育成委員会を開催しました。学校からは学習や生活の様子を伝え、委員の皆様からは、地区での生活の様子が伝えられました。小職から不審者から児童を守る取組（見回りや街頭指導）を委員の呼び掛けで、地域の皆様が行っていることに感謝を述べました。また、地域でもあかいつ子が立派に挨拶をしていることもお聞きして、家庭と学校で取り組む挨拶指導の成果を感じました。

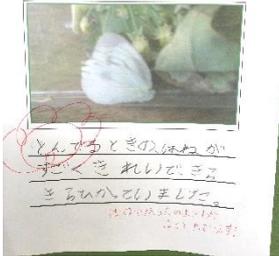


タブレットを活用した学習とメディア・コントロール



いろいろないきものを紹介

もしもちようも つがまえたよ
なまえ 新田のかか



いきもの観察カード(1年生)



授業でも、学習目標達成のためにデジタルとアナログを教育効果を考え使い分けております。

気になることがあれば
遠慮なく学校まで連絡を!



生活科「いきものとなかよし」の観察カードが1年生の廊下に掲示されています(写真上)。校庭でバッタやカマキリをタブレットで撮影していた1年生の画像を担当が観察カードに貼り付けたのかと担任へ聞いてみると・・・。「題字の入力、名前の入力、画像の貼り付けも1年生が行いました。」とのこと(写真中)。凄い!

タブレット学習が始まって4カ月ですが、操作スキルが向上しています。毎週末持ち帰りを行い、算数ドリルに挑戦したり、文字ソフトでローマ字入力をしたり、どの学年もタブレットが文房具の一つとして活用できるように取り組んでいます。



また、並行して本市では「心あったかいイートころ運動」でデジタル・メディアコントロールに取り組んでいます。この便りでも取り上げてきましたが、ゲームやスマートフォン、タブレットの利用時間を自己管理して、ゲーム脳や視力低下を防ぎ、SNSの犯罪に巻き込まれないスキルを身に付けることです。夏休みに開催した「東松島子ども未来サミット」で東北大学加齢医学研究所教授(医師)瀧靖之先生は以下のことを話していました。紹介します。

◎アウトドアの世界を体験する。(虫取り、釣り、クッキング、キャンプ等)

「運動」「コミュニケーション」「好奇心」の要素があるアウトドア体験は子供の脳に非常に良い刺激になる。

◎メディアが脳発達に与える影響は?

子供の共感性が昔に比べ落ちている。ネットの上で文字だけの会話やゲームではコミュニケーションや体験の時間が減っていき、脳の成長には良くない。

◎ゲーム中毒とは?

直接的な身体・脳への影響だけでなく、食事・睡眠・コミュニケーションなどの基本的な生活習慣まで阻んでしまうことが問題である。ゲームの時間を決める必要あり。



週末のタブレット持ち帰りとアウトドア体験の進めは相反することようですが、二つの『バランス』を図る力が将来に向けたメディア・コントロール力になります。家族で週末の過ごし方を話し合ってください。まずはゲームや動画視聴時間を1日1時間以内(本校の目標)にすることに取り組んで下さい。将来の脳と身体を健全にするために。

学校配布のタブレットがはじめを助長したと思われる事案が東京で起こりました。先日、全学年で発達段階に合わせて担任より①タブレット学習のねらい②チクチク(相手が傷つく)言葉の禁止③はじめの定義について、改めて指導しました。本校で取り組んでいる「はじめ0」の防止活動から、より良い仲間作り、集団作りにさらに発展させて参ります。

9月は「俊斎月間」と位置づけ、赤井出身の大槻俊斎先生の学習をしました。俊斎先生の幼少期、青年期、晩年期を副読本を使い、夢に向かって進む生き方から「志を持つ大切さ」を学びました。また、6年生は俊斎学習の始まりや副読本作成の裏話などの当時のPTA会長を講師に招いて勉強しました。

今回初めて、保護者の方にリモート参観を実施しました。仕事の都合をつけて参観いただき感謝いたします。

「俊斎学習」今年はリモート参観



赤井出身の偉人から学ぶ(2年生)

講師は外処元P会長(6年生)

昨日、担任より一人一人に言葉を掛けて通知表を配付しました。ご家庭でもお子さんの頑張りをたくさん褒めてください。今日から10月。R3年度後半のスタートです。「**あ**たたく **か**しこく **い**きいきと(あ・か・い)」の目指す児童像の実現に取り組んで参ります。